医療をつなぎ、未来へつなぐ



DX審査支払機構のご案内
GUIDE BOOK







医療情報基盤・診療報酬審査支払機構
Japan Healthcare Payment & Digital Transformation Services



医療情報基盤・診療報酬審査支払機構
理事長 樽見（たるみ） 英樹（ひでき）

国民皆保険を支え、医療DXを進める力として。

令和8年10月1日、社会保険診療報酬支払基金は「医療情報基盤・診療報酬審査支払機構（DX審査支払機構）」として新たなスタートを切りました。

昭和23年の支払基金発足以来、社会保険医療費の審査支払業務を通じて培うことのできた関係者の信頼の輪の上に、その後の各種財政調整事業、そして令和３年からのオンライン資格確認等システムの事業が積み重ねられてきました。このオンライン資格確認のネットワークを基礎として、救急時の情報連携や電子処方箋の仕組みの運用が始まり、我が国医療におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）がその形を現してきたのです。そして今日、私どもは、我が国の医療DXを推進する中心的な役割を担う組織となりました。

現在我々は、情報と情報技術がサービスそのものを大きく変える時代にいます。医療においても、患者お一人おひとりの身体や病状に関するデータが正確に取得され、診断に反映されることが的確な医療の提供に不可欠であることはもちろん、チーム医療や在宅医療、あるいは介護などとの連携が広まる中、関係者間での迅速的確な情報共有が、それぞれの患者に相応しいサービスの提供に不可欠のものとなっています。電子処方箋は患者の利便性を高めるだけでなく、飲み合わせの危険を防いだり重複投薬による不必要な医療費の発生を防ぐ機能も果たしています。また、予防の領域においても、健康診断などの情報をきちんと管理し、保険者や自治体による適切な保健指導に結び付けていくことが、効果を上げるために極めて重要です。



さらには、医療に関する情報を個人の特定ができないようにしたうえでビッグデータとして二次利用できるようにすることから、新たな医薬品や医療技術の開発につながることも期待されます。

各医療機関においても、医療提供に関する情報を適切に管理して活用することが、経営の安定と効率化につながります。

こうした医療の情報化、DXを進めるためには、それぞれのプレーヤーにおける情報化の取組を支援するだけでなく、情報を共有するための仕組みと環境を積極的に作っていかなくてはなりません。私どもDX審査支払機構が担うのはまさにそうした役割です。国が定める推進方針に基づき、中期計画と年度計画を定め、それに即して取組を進めていきます。

従来からの審査支払業務についても、医療技術の進歩や診療報酬改定などを踏まえて適切な支払いが確実に行えるよう、引き続き、効率的な審査事務の実施や不合理な地域差の解消、原審査の質のさらなる向上等に取り組んでいきます。特にAIの活用については、目視対象レセプトの着実な振り分けなどに実績を上げていますので、さらに取組を進めて審査の充実に結び付けていきたいと考えています。

私どもはこれまでも、保険医療における医療機関と保険者をつなぐハブとして機能してきました。医療機関どうし、医療機関と保険者、そしてお一人おひとりの患者や被保険者を、つなぎ、より良い医療に結び付けていくという機能を持っています。それをしっかり果たしていくという責任感と誇りを胸に、新機構の発足を機に、新たなロゴマークと「医療をつなぎ、未来につなぐ」というミッションを定めました。

職員一同、医療に関わる制度と情報システムに精通したプロとして研鑽を積み、我が国医療の向上の役に立っていきたいと念じております。新たに発足した運営会議の委員の皆様のご指導をいただきながら、患者にとってのより良い医療の実現に向けて、取り組みを進めてまいります。皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。



DX審査支払機構の使命

誰でも安心して受けられる医療を支え、健康と医療の未来を拓きます。

診療報酬の審査・支払に加えて、医療DX関連システムの開発・運用を中心となって進める役割を担う組織として、我が国の医療に貢献しています。

これまでの経緯

2026 令和8年10月1日

「医療情報基盤・診療報酬審査支払機構」へ改組
略称：DX審査支払機構

診療報酬の審査支払と医療DXの運営の双方を担う法人としてスタート。

DX審査支払機構は、レセプトデータを長年取り扱ってきたことや、すべての医療機関や保険者と接続する専用回線を通じたネットワークを有していることから、こうした情報基盤やノウハウを活かし、医療DX関連システムの開発・運用に係る母体としての役割を担うこととなりました。

2022 令和4年

支部を廃止し、審査事務集約の組織改革を実施

10月、審査事務を全国14の拠点に集約する組織改革を実施。

2021 令和3年

支払基金内にデータヘルス部門を創設
オンライン資格確認等システムの導入

医療保険者等が医療保険者等向け中間サーバーに登録した資格情報を基に、保険医療機関等に資格情報等を提供することが可能に。

審査支払新システム稼働

2種類のAIによるレセプトの振分機能を実装、その後、2024年12月、レセプトを特定のルールに基づいてグループに分類するというAIの仕組みの英訳Receipt Clustering using AIの頭文字を取り「RECAI（りかい）」と命名。

2003 平成15年

特別民間法人化

特殊法人改革の一環として、特別の法律による民間法人に。

2002 平成14年

レセプト電算処理医科システムにおける画面審査の開始

審査に特化した画面構成、審査参考情報を付加した整備。

1994 平成6年

レセプトOCR処理システムの導入

取扱件数・電算化明細書の増加からレセプト分類及び加算業務を機械化。

1948 昭和23年

社会保険診療報酬支払基金として設立

診療報酬請求書（レセプト）の適正迅速な審査と支払を目的とする特殊法人。

主な業務

❶ 医療DX関連業務

- オンライン資格確認等に関する業務
- 中間サーバーを用いた情報連携に関する業務
- 電子処方箋管理サービスの開発・運用に関する業務
- 電子カルテ情報共有サービスの開発・運用に関する業務
- レセプト情報・特定健診等情報（NDB）の提供等、情報の二次利用に関する業務
- 健康スコアリングレポートの作成とデータヘルス・ポータルサイトの運営

❷ 診療報酬等の審査支払業務

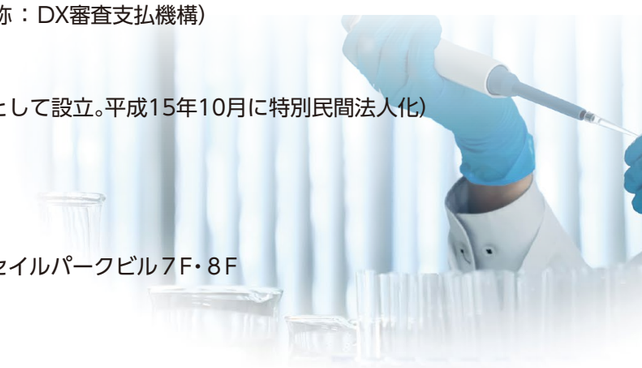
- 被用者保険の保険者からの委託に基づく、保険医療機関等に対する診療報酬等の審査支払
- 生活保護等公費負担医療に係る診療報酬等の審査支払
- 都道府県・市町村単独医療費助成に係る審査支払
- 保険者から委託された医療保険各法等による保険給付の支給に関する事務

❸ 保険者等との財政調整等に関する業務

- 高齢者医療制度
  - 前期高齢者（65～75歳未満）加入率の低い保険者から高い保険者へ医療費の不均衡を調整し、交付金を交付する業務
  - 後期高齢者（75歳以上）医療について、各保険者から支援金を徴収し、後期高齢者医療制度を実施する広域連合に交付する業務
- 医療保険者（第2号被保険者分）から介護給付費・地域支援事業支援納付金を徴収し、市町村へ介護給付費交付金及び地域支援事業支援交付金を交付する業務
- 子ども・子育て支援納付金関係業務　等

組織概要

名　　称	医療情報基盤・診療報酬審査支払機構（略称：DX審査支払機構）
設　　立	1948年（昭和23年）9月
法人の性格	特別民間法人（昭和23年9月に特殊法人として設立。平成15年10月に特別民間法人化）
主な事業内容	・医療DX関連業務 ・診療報酬等の審査支払業務 ・保険者等との財政調整等に関する業務
所在地	本部：東京都江東区豊洲2丁目1-9 豊洲セイルパークビル7F・8F 審査事務センター・分室：全国14か所 審査委員会事務局　：47都道府県
職員数	約3,700名（令和8年10月1日現在）







医療情報がつながる。安心が広がる。

必要な情報を、必要なときに、必要な人へ。医療DXで、より安心で便利な医療を支えます。

DX審査支払機構は、オンライン資格確認、電子処方箋、電子カルテ情報共有など、医療DXを支える基盤の整備・運用を担います。医療に関わる人や機関を必要な情報でつなぎ、より安心で質の高い医療の実現を支えます。



医療DXを支える主な取組

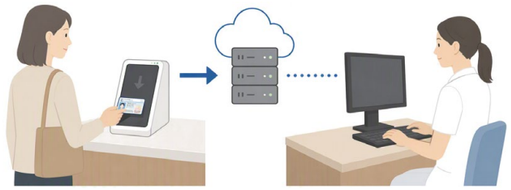
マイナ保険証・オンライン資格確認	電子処方箋	マイナ救急	電子カルテ情報提供	データヘルス
1枚でどこでも安心して医療を受けられる	より安全で適切な薬の提供を支える	もしもの救急時にも必要な医療情報が伝わる	医療機関間で診療情報をつなぐ	データの活用で健康づくりと医療の質向上

医療DXの主な取組とその効果

医療情報がつながることで、日々の受診から、もしものときまでさまざまな場面で安心と便利が広がります。

1 どこでも安心して受診

オンライン資格確認



医療情報を共有しているから、いつでもどこでも安心

2 薬の受け取りも安心・便利

電子処方箋



便利になるだけでなく、重複投薬や併用禁忌をチェック。
より安全な服薬と医療費の適正化につながります。

3 救急時にも医療情報を情報共有

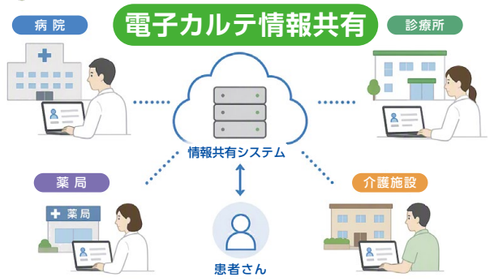
マイナ救急



本人が十分に説明できない救急時でも、
必要な医療情報を救急隊員や医師が確認できることで、
迅速で適切な搬送や治療につながります。

4 電子カルテでつながる安心感

電子カルテ情報共有



診療情報や検査結果などを電子的に共有。紙の書類や
CD-ROMの持ち運びが減り、スムーズな診療につながります。

5 自分の医療情報を健康づくりに活かす

マイナポータル等



マイナンバーカードでログインして利用します

検査結果や検査値などをマイナポータルで確認。
日々の健康管理に役立てることができます。

「医療情報基盤・診療報酬審査支払機構」は、医療DXに関するシステムの開発・運用を中心になって進める役割を果たしていきます。

国民の健康づくりや、臨床現場における最適な医療の提供、医療費適正化や効率的な医療提供体制の構築、二次利用の推進等を通じ、幅広い分野で我が国の医療に貢献できるよう、取組を推進します。

診療報酬の審査支払業務

「適正な審査」と「迅速な支払」で医療保険制度を支えています



マイナ保険証を提示

医療機関等

行った診療の内容からレセプト（診療報酬明細書）を作成し、患者には自己負担分（一部負担金）だけを窓口で請求します。

診療報酬の審査支払とは

マイナ保険証を使って医療機関等にかかった場合、窓口で支払う額は原則、医療費の3割で済みます。残りの医療費は保険者（協会けんぽ、健康保険組合、共済組合など）がDX審査支払機構を通じて医療機関に支払っています。その際、DX審査支払機構では、医療機関等からの請求内容が適正かどうかを審査しています。

皆さま

被保険者（本人）・被扶養者（家族）

働く人（被保険者）は毎月の給料や賞与から保険料を保険者に納めます。年収などの一定条件を満たした家族（被扶養者）も受診できます。

保険料

被保険者、被扶養者を保険加入者として登録

保険者

（協会けんぽ、健康保険組合、共済組合など）

保険者として資格状況等の必要なチェックをした上で保険者負担分を支払います。

審査後のレセプトを基に保険者負担分を請求します

請求に従って保険者負担分を支払います

レセプトを提出し保険者負担分の医療費を請求します

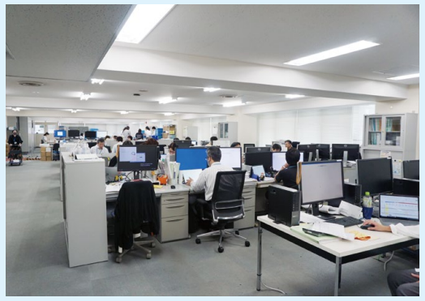
患者自己負担分（一部負担金）を除いた保険者負担分を支払います

DX審査支払機構

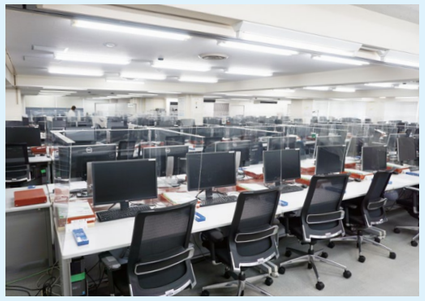
13億件/年

専門家である医師、歯科医師、薬剤師がレセプトの内容を審査します。請求が適正でない場合は、査定（減額）したり、医療機関等へレセプトを戻して再提出を求めます。

医療機関から請求されたレセプトは、審査事務センター・分室（14か所）でチェックの上、各都道府県に置かれた審査委員会で審査しています。



審査事務センター執務室



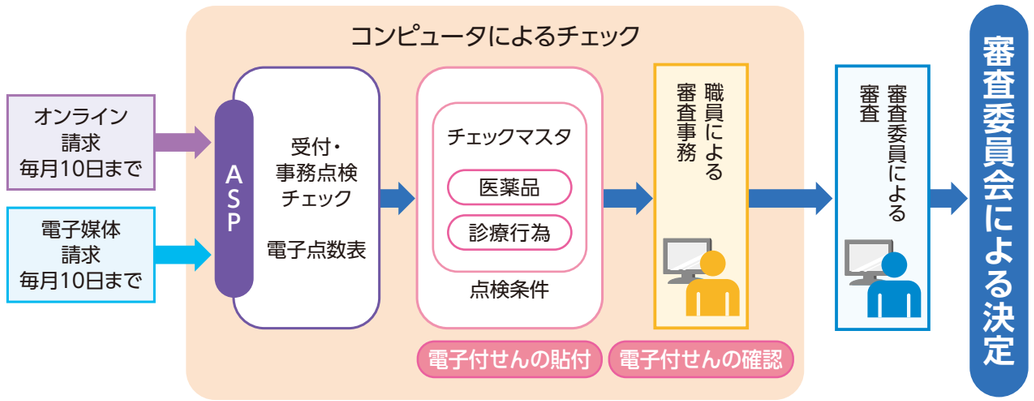
審査委員会事務局　審査委員会室

各拠点の状況はこちら

審査とは・・・

診療行為が保険診療ルールに適合するかどうかは、医師・歯科医師・薬剤師からなる審査委員会が最終決定します。

電子レセプトの審査の流れ



※ASPとは、レセプトを受け付ける段階で記載漏れ等を点検する機能です。

DX審査支払機構基本理念

医療をつなぎ、未来へつなぐ

Mission
（使命）

「診療報酬の審査支払」と「医療DXの推進」により
医療に関わる全ての人をつなぎ、
誰でも安心して受けられる医療を支え、
健康と医療の未来を拓きます。

Vision
（組織としてありたい姿）

良質な医療の円滑な提供を支えるため
医療に関わる制度と現場の実務、
情報システムに精通した
プロ集団として、成長を続けます。

Values
（ありたい姿のための行動指針）

- 現場を重視し、迅速かつ適正・丁寧に業務を遂行します。
- 社会の要請を的確に捉え、新しい価値の創造に挑戦します。
- 公正中立な事業運営と情報セキュリティ対策の徹底により、信頼を確保します。
- 強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励します。
- 職員一人ひとりが、働きがいと成長を実感できる組織であり続けます。

詳細はDX審査支払機構ホームページをご利用ください。
https://www.hpdx.or.jp

医療情報基盤・診療報酬審査支払機構本部
〒135-0061　東京都江東区豊洲2丁目1-9
豊洲セイルパークビル7階・8階
TEL 03-3591-7441（代表）

2021年認定 くるみん☆ 子育てサポートしています
仕事と介護の両立支援
マイナンバー